
「瞑想と縁（エン）」

宝彩瞑想会

2018年09月10日（月曜日）（昼）

13:00-17:00（受付は、12:30から）

瞑想と縁（エン）

沼津

宝彩有菜

●縁の付く述語

縁側、縁起、因縁、由縁、縁故、縁日、良縁、離縁、
地縁、無縁、有縁（うえん）、

●縁の説明【広辞苑】（③仏）

原因を助けて結果を生じさせる作用。

直接的原因（因）に対して、間接的条件。

また、因と同義にも用いる。

例：前世の縁、因縁、縁起

●縁を英語辞書で引くと

縁起のよい=Lucky、縁起の悪い=Unlucky、Jinx

●三法（四法）

諸行無常、諸法非我、涅槃寂靜、+、一切皆苦（四苦八苦）

●全てのことは、原因があって、結果がある。縁起。

（因、原因）→〈縁〉→（報、結果）

「すべての苦は、欲が原因である」とは言っているが…

おそらく、後で、仏教が宗教化していく過程で、入ってきたもの
仏陀自身は「縁」を説いたかどうか、不明。

「神」は概念。「解らないこと」を押しつけた。「縁」も概念。

●日常で言うところの「縁」を良くしたり、「運」を良くすることは
可能かどうか？

因を良くする努力、場所、時間、自分、周囲、関係、その他

縁を良くする準備、情報、学習、判断、経験、体力、知力

以上、いわゆる、一般の日常の向上努力と同じ。

しないよりは、した方が良いが、天変地異や、巡りあいのタイミング
等は、努力のしようがない。

●縁の守備範囲は、大きい。

(神や仏の計らいと言って、棚上げする方便に使用)

何でも縁に持って行くとと、宗教になり、スピリチュアルになる。
知らないことを知った風に吹聴する人のいいなりになりやすい。

●現状の事象を「縁の結果」と見る場合

どのようなことを現在しても、起こった事象は変えられない。
つまり、縁があるとしても縁の作用は、確定していて変えられない。
過去の縁は、どっちみち意味がない。

●悪縁の解消

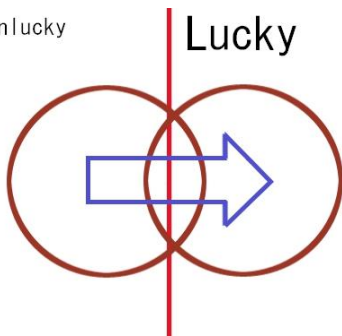
通常的生活改善、向上志向の一環。

●悪縁を。「将来」呼び込む仕組み

もし、自分自身にその根本的な、弱さや、強欲や、何かあるなら
まず、それを解消すること。現実の悪縁退治も簡単。
その意味で、悪縁との認識は、絶好の修行の種とも言える。

Unlucky

Lucky



●「良縁」「God luck」が将来起こるのを増やしたい。

(=「悪縁」「Bad luck」が将来起こるのを減らしたい。)

●未来の良縁をのぞむ場合

より良縁がくるように設定、努力することは、通常の向上心と同じ。

良いことだが、強欲だと、その分、限界がある。

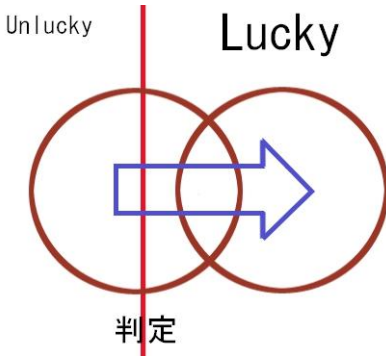
人知を超えて物事は進む。人知を超えてまで、それをさらに望むのは、「苦」が増す。棚上げして奉ってしまうのは、方便として機能。

●良縁の受取体質に、改善

お札を購入しても科学的に根拠はない。

良くしたいと欲すれば欲するだけ、苦しくなる

●その場合、判定を変える方法もある



●判定を変えると、良縁は自動的に増える、無駄な事を思考しない。出来ないことを望まない。瞑想の基本と同じ。感謝が増えると、良縁が増える。

欲の4要素			愛の4要素		
get	得る	欲	愛	与える	give
hold	保つ	執着	笑い	手放す	drop
compare	比べる	比較	大肯定	認める	accept
more	もっとももっと	不満	感謝	満足する	enough
欲の方向 ←			→ 愛の方向		

©Arina Hosai